外国出張報告書

平成 26 年　4 月　7 日

1. 出張国名　　ガーナ

2. 出 張 月　　平成 26 年　2 月～3 月

3. 出張目的　　ため池現状調査、ため池周辺の栽培技術の調査補助：B

4. 成果の概要

水稲栽培への利用の視点からのため池の現況調査を行った。サバンナ気候帯に位置するタマレでは、ため池周辺の天水田は年 1 作で、散播直播が一般的である。通常 1 回耕起であるが、Nwogu 村の高収量の水田は播種 1 月前に 1 度耕起することで周辺農家より高い収量を得ていた。さらに JICA のデモ圃場では、ほ場の均平、条播、種子選別を行うことでかんがい並みの収量を得ている。大規模かんがい地域では、周年、移植栽培が行われているが、ほ場の均平が不十分で栽植密度は過剰であった。同地域では、Jasmine85 の連続栽培でかなりの収量低下が発生した。品種切り替えで収量が回復したことから種子劣化が疑われる。また、域内の NGO によるデモファームでは、ほ場の均平、20cm 正条植え、10 日未満の幼苗の 1 本植え、いわゆる SRI の移植が行われていた。熱帯雨林気候帯に位置するクマシでは、移植による 1 期作、ヒコバエ収穫、2 期作が行われていた。小規模ため池による補助かんがいがあれば 2 期作の安定化が可能と思われる。